

グラウンドワークとは・・・・・・・・

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
(文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。)

鈴木康友静岡県知事に報告

「2025年度・グッドデザイン金賞及びベスト100」受賞 「第18回・静岡県景観賞・最優秀賞」受賞

2月10日、静岡県庁にて鈴木康友静岡県知事に「2025年度・グッドデザイン金賞及びベスト100」と「第18回・静岡県景観賞・最優秀賞」受賞の報告をした。

「グラウンドワーク三島さんには、多彩なサポーターがいて信頼で結ばれた人的ネットワークを構築されているのですね」と驚かされていた。今後も三島はもちろん静岡県の県土づくりに「議論よりアクション」で取り組んでいく決意を伝えた。



左より：室伏強評議員、渡辺豊博専務理事、小松幸子理事長、河合孝彦評議員、鈴木康友静岡県知事、美和将弘事業課長、小野徹副理事長、門倉京子広報アドバイザー



第29回・「地球倫理推進賞」・「文部科学大臣賞」受賞



3月29日、都市センターホテル3階コスモスホールで開催された「第29回・地球倫理推進賞授賞式」に、渡辺豊博専務理事、緒明春雄理事、春名薫監事、美和将弘事業課長、推薦者の石井真人さんが、静岡県倫理法人会望月会長とともに参加。

『人と自然が共生できる環境再生への挑戦～「現場学」を学ぶ体験的環境教育・地球倫理を実践～』というタイトルで、渡辺豊博専務理事が講演。

「まちは市民のもの、まちづくりを他人事から自分事に、自立と自律がまちづくりの基盤、市民・行政・企業とのパートナーシップ・地域協働の仕組みを調整仲介する中間支援組織・グラウンドワーク三島の重要性、合意形成の極意、環境デザインのポイント、人は人のために生きてこそ人なりの理念、現場の汗とスcoopで地域を改善・再生、議論よりアクションで人と日本を元気にする秘訣」などを全国からの参加者数百人に力説。会場は時に笑いに包まれ、市民力強化の大切さと現場で人の心を修練していく重要性を理解していただけたと思われる。

あわせて文部科学大臣賞を受賞し、副賞の100万円もいただいた。今までGW三島の活動を支えてくださった多くのサポーターに深謝。

「第29回地球倫理推進賞」受賞等を豊岡武士三島市長に報告

4月22日、三島市役所にて豊岡武士三島市長へ「地球倫理推進賞」受賞や文部科学大臣賞受賞の報告と説明を行った。

多様な環境再生活動への取り組み状況や小中学校への環境出前講座で毎年40校・1,500人が受講していることなど、体験型人材育成の成果について説明。また、これまで34の受賞歴があり、約24億円の外部資金を獲得したこと、台湾との交流、イギリスのまちづくり等の情報提供も行った。

豊岡市長から、30年以上にわたる地道な努力に敬意を表するとともに、さらなる発展を望むとの励ましの言葉をいただいた。

左より：小野徹副理事長、三島市倫理法人会塩川重仁会長、小松幸子理事長

豊岡武士三島市長、渡辺豊博専務理事、石井真人推薦人、美和将弘事業課長



松毛川で竹類のチップ化作業



＊3月5日 源兵衛川などで伐採、搬入した大量の竹や木の枝類をチップで粉碎、処理。

＊3月6日 竹類のチップ化作業、2日間で処理、片付け終了。チップを発酵させ、肥料として使用し、植林活動に活用する予定。

富士山湧水調査隊

＊1月31日、富士山東麓に点在する湧水地、沼津市・南一色湧水(フィッシングセンター、東名高架橋下)。裾野市・平山水源地清水湧水。御殿場市・中清水水神公園、二子湧水、二枚橋の滝不動、道の駅ふじおか。小山町・金時神社、湯船八幡神社、大太郎湧水など11カ所を現地調査、水質調査を行った。今回と今までの調査結果はGW三島のHP「富士山湧水マップ」に掲載。

＊2月7日、富士山南麓の湧水地16カ所の調査を行った。残念なことに沼津市平沼地区では数年前まで田んぼの中で用水源として利用されていたが、現在は耕作放棄となっており湧水地が判別不能。また富士市の誠信少年少女の家東側では湧水が確認できなかった。このように維持管理されず放置されている湧水地は、災害時の観点からも、保護保全策が必要とされる。

第1回理事会・評議員合同会議開催

4月7日、GW三島の事務所で、令和8年度第1回理事会・評議員会合同会議が開催された。年間4回程度の会議で、状況報告や課題出しを議題に、役員同士議論・検討し、助言・承認を受けて組織としての基本的な方向性や取り組みの骨格を決めている。

今回の議案は、令和7年度の事業報告・収支決算、令和8年度の事業計画・収支予算の説明、新刊本『ジャンボ・メッセージ』発売に関わる情報共有、今後の発展的なアプローチなど。本年度は、予算規模が約3千万円、助成金が5本、業務委託が8本。

新刊本は、蓄積してきた膨大な専門的な知識・知恵をAIに教え込んだことから、著者は、渡辺豊博専務理事とAIジャンボ。革新的な「出版革命」の夜明けとも言えそうな新年度がスタートする。



「ほたるの里」の修復・整備作業

＊2月13日 竹垣に使用する竹材の切断作業。竹垣の縦竹材・長さ90cmを170本、横竹材・長さ2.4mを30本用意した。また、水路の土手整備に使用する土も用意した。

＊2月14日 古くなった竹垣を修復し、硬くなり崩れている土羽の補修作業をした。竹垣は、久峯公雄さんの指導の下、見違えるようにきれいになった。水路の兩岸に新しい土を入れ、ホタルが上陸し土繭を作れるように整備した。

＊2月26日 竹垣の棕櫚巻きと土手の法面の整備を実施。自宅近くの川にいるカワニナを持参した人が来たので、水路に放流してもらった。



私のセカンドライフ



GW三島インストラクター

ふじい まさあき
藤井 正明さん

(三島市谷田在住) 【寄稿】

昭和 20 (1945) 年 8 月、広島県福山市で生まれ、18 歳で上京し、昭和 44 (1969) 年まで会社勤めをしていました。その後、沼津市に転居。34 歳で結婚し、御殿場市に住居を構え、54 歳まで住んでいました。52 歳の頃、もう少し環境的、文化的にも住みやすい所はないものかと考えるようになりました。

色々な土地を検討するために、三

島市谷田近辺を見て回っていた時、畑の脇で自家製野菜を販売しているおばあさんと偶然出会いました。世間話の中で宅地を紹介してもらい、その後、おばあさんは地主の方だった事がわかりました。その時、おばあさんに出会わなかったら三島とは縁が無かったかもしれません。その偶然の出会いのお陰で、気にいった土地に住居を構えることができました。

60 歳で会社を定年退職しました。退職後、1 年間は充電期間で、その間今後なにをしようか、色々考えました。そんな時、新聞の折込チラシの一枚に目がとまったのが、GW三島の「リバーインストラクター養成講座」でした。ボランティアは前から興味があったので申し込みました。これを起点にして、私のセカンドライフが始まりました。

講座は受講者でほぼ満席で、内容も新鮮で大変興味がわく内容でした。その中でも湧水に関する講座が大変新鮮でした。現場等、しばらく活動していた中で、事務局員から「富士山エコネット」の NPO 法人を紹介されました。その法人の活動内容、場所など概略を聞いた時、今までの経験とかけ離れた内容であったので今の能力で出来るのか不安がありました。また、活動場所も山梨県で、片道 1 時間 30 分と距離的にも長いので、受けるか否か悩みました。後日現地を下見、仕事の内容を聞いてこれは大変な仕事だと思いましたが、思い切ってチャレンジする事にしました。今思うとこの時この仕事をキャンセルしていたら、充実感のないセカンドライフを送っていたと思います。

約 18 年位続いている「富士山エコネット」ですが、活動期間は 4 月中旬～10 月上旬で、年間約 50 日～60 日。対象は小学 5 年生、中学 2 年生、高校 1 年生で、関東圏の生徒が中心です。内容は、富士山の成り立ち、火山、樹海の植生、動物の紹介などの、自然環境教育です。同時に富士山 5 合目、富士五湖周辺の登山ガイドもします。幅広い年代の生徒にわかりやすく説明するには、奥深い知識が必要でした。

その知識をサポートしてくれたのが、山梨県富士山科学研究所が主催の「富士山自然ガイドスキルアップセミナー」でした。平成 24 (2012) 年 12 月 1 日～平成 28 (2016) 年まで、延べ 32 回、受講時間も約 96 時間でした。講師は研究所の研究員、大学の先生から受講する事ができ、講座は無料で毎回講師からテキストの配布がありました。テキストの内容はイラスト入りで理解し易いものでした。この講座のおかげで知識の幅が広がり余裕を持ってガイドが出来る様になったと思います。

GW三島が起点で、セカンドライフを楽しめていると思います。いつまで続けられるか、年齢との競争です。

江戸時代の囲碁棋士

やすい ちとくせん ち
安井 知得仙知

江戸時代の三島宿

1843年時点で本陣2軒、脇本陣3軒、旅籠74軒、人口4,084人、家数1,025軒という大きな規模だった。江戸日本橋から11番目、箱根峠を西に下った最初の宿場。箱根越えに1日を要したため、旅人が必ず宿泊する「箱根八里」の要衝だった。伊豆の国一宮三嶋大社の門前町としても発展した。

した彼は厳しい修行に耐え、めきめき頭角を現し一門のトップ棋士となった。

寛永12(1800)年、仙角の引退後、安井家八世当主となり、安井仙知と称した。本因坊門下に元丈という棋士がいて、二人は好敵手として腕を磨きあった。天明8(1788)

年、知得13歳時の対局から文化12(1815)年の御城碁(おしろご)まで、80局という異例の棋譜が残されている。元丈は厚く打って攻めを得意とし、知得は堅実でシノギを得意とする碁で、いぶし銀とも呼ばれ、対照的な碁風だった。また、ヨセの名手としても知られている。私生活でも親しく交際し、仙知が安井家当主、元丈が本因坊家十一世当主となった後も二人の友情は続いた。実力も伯仲していて、揃って八段に昇進し、終生、対局したが勝敗は決せず、後世「二人とも名人の技量があって、もし、時が違ったならば、ともに名人になったであろう」と讃えられ、文化年間(1804~1818)の「天下の双璧」と称された。また、元丈、井上幻庵因碩、本因坊秀和とともに「囲碁四哲」と称されている。

当時、囲碁界の最高位である名人碁所(めいじんごどころ)が空席のままだった。碁所になれるのは一人だけで、日本一の実力、九段の免状、家元四家の合意の条件があり、仙知も元丈も最有力候補だった。しかし、二人は互いに譲り合い碁所になろうとしなかった。文政10(1827)年、元丈が引退し、本因坊家十二世当主になったのは、伊豆木負(現沼津市西浦)出身の丈和(八段)である。丈和は、碁所就位を目指したが、三家の賛同を得えられなかった。しかし、仙知が健康を損ねていたことに乗じ、就位願いを提出し名人碁所として認可された。

仙知は、心清く大人の風格を持った名棋士であり、元丈と共に当時の碁界の発展に貢献した。息子の俊哲(算知)も棋士となり、七段に昇進して安井家九世当主となった。

著作「河洛余数」(1822年)

弟子の佐藤源次郎の遺譜をまとめたもので、佐藤の妻子の援助のための出版といわれる。



囲碁の歴史

約1,400年前(奈良時代以前)に中国から伝来したと思われる。奈良時代には、盛んに打たれていたように正倉院に碁盤が収められている。平安時代には、宮廷貴族のたしなみとして好まれ、『枕草子』『源氏物語』などにも碁の描写がみられる。室町時代になると、武家や庶民にも広がった。戦国時代には、戦いのシミュレーションとして好まれた。戦国から江戸にかけては、日本の碁のレベルが飛躍した時代である。特に江戸時代の「家元制度」によりプロ棋士の技術が向上。その技術の発揮の場が江戸城内、将軍御前で行われる「御城碁」であった。明治維新により江戸幕府が崩壊すると「家元制度」も崩壊した。そんな中でも囲碁の火を絶やすまいと囲碁結社「方円社」や「囲碁奨励会」が設立され、現代の「日本棋院」へと続いていく。



囲碁がQRコードに与えたヒント

- ・ **構造のアイデア** 縦横の格子状に白黒で情報を表わすという囲碁の考え方が応用されている。
- ・ **高速読み取り** 囲碁の盤面にある「星(目印)」から着想を得て、QRコードの角に「位置検出パターン」を配置することで高速かつ正確な読み取りを実現。
- ・ **汚れ、破損の強さ** 碁石が少しずれても、汚れがあっても周辺の構造から情報を正しく読み取れる囲碁の特性を応用。発案者の原昌宏氏は日本棋院から「囲碁大使」に任命されるなど、囲碁とQRコードの結びつきは深く知られている。

参考資料:『群像いず』永岡 治著 静岡新聞社

『静岡県歴史人物事典』(塚本五郎 静岡新聞社)

ウィキペディア フリー百科事典

※「QRコード」は、1994年デンソーウェーブが開発。技術者の原昌宏氏が考えた。昼休みに趣味の囲碁をしている最中に着想したアイデアである。

Smile スマイル



ガーデン作業で交流 タイの青年たちと

←ジャールギュット・ムアシタク
さん（呼称：ジェームさん）
→ナツシャノン・マーナムガセ
ームさん（呼称：ファーストさん）



ジェームさんは25歳。バンコクから3時間ほどのナコーンラッチャシーマー県出身。8歳の時に両親と兄の4人家族で訪日経験がある。ボクシングをしている。北海道へ行ってスキーをしたいと願っていたら、2月8日に、何と三島で雪景色が実現！

ファーストさんは23歳。バンコクから30分くらいのパトゥムターニー県出身。音楽が好きで、ゲームでやっている麻雀を実際に体験したいと要望。後日、ガーデン仲間とその機会を得た。



タイ青年もガーデン日誌に日本文字で作業内容や感想を書く。日本語の進歩も素晴らしい。

↑12月7日にチューリップの球根植え。↓3月下旬、開花。



→↓
2月8日には三島が雪景色に。



パッションNo. 55

御園田園環境保全委員会 での活動 並びに

松毛川工事の進捗状況について

御園田園環境保全委員会代表 瀬川元治

→御園田園環境保全
委員会での活動（遊
休農地の草刈り）



令和6年度に御園地区の優良農地と美しい田園環境の保全継承を目的として、御園田園環境保全委員会が設立されて2年が経過し、御園地区での本格的な農業改善や整備事業に取り組んできております。

2年目には、整備のための優先順位をGW三島とも相談させていただいた中で、段階的に整備や補修を進めてきました。具体的には、農地の耕耘や路肩の草刈り、道路の補修、水路の掘削作業などについて、多面的機能支払交付金事業の補助金も活用し、成果を出していきたいと思っています。効果としては、農地や水路の補修・整備によって車や農耕機などの通行の安全性が確保される。また、遊休農地の草刈りが順次行われることで、今後の農地利用者の確保が見込まれます。さらに、富士山を望む美しい田園景観が維持されることで、土地の価値が低下しない等です。

今後、本地区を優良農地として維持・保全していけば、農地利用（専業農家・新規就農者）による賃借希望者が増えていきます。将来的には、都市開発は困難ですが、「農業公園」や「ふれあい広場」、「市民農園」などの利用計画も考えられます。今後とも御園地区の田園空間の保全・管理を図り、優良農地として次世代にしっかりと継承していくために、地域が柱となり、GW三島・行政・県等が一体化して進めていくことが重要であります。

続いて、松毛川の関係ですが、現在、県による親水護岸整備工事が進んでおりまして、2028年度までに3期に分けて約690mを整備する計画になっております。上流部約210mの第1期工事が本年6月に完了します。環境負荷を低減するミチゲーションを取り入れた工事で、松毛川に生息する動植物への影響を調査しながら進めています。第2期工事は本年10月以降に開始される予定です。美しい田園景観と豊かな生物多様性を誇る松毛川を有する御園地区に、皆様もぜひ足を運んでください。

富士山湧水保全フォーラム

2月23日のフォーラムでは、富士山周辺や三島に点在する湧水地の現状と魅力、課題を臨場感のある写真で報告。また、湧水や川に生息する鳥やトンボの生態についても専門家が解説。その後、富士山インストラクターを交え、参加者と意見交換。世界の宝物である富士山の保全・発展、「水の都・三島」や源兵衛川の未来を熱心



▲会場：三島商工会議所TMOホール
話題提供：①渡辺豊博GW三島専務理事（元都留文科大学教授・農学博士）②滝道雄日本野鳥の会東富士副代表③加須屋真元常葉大学非常勤講師 パネリスト：上記3人と、藤井正明富士山インストラクター

について熱心に議論。

神戸大学の学生・視察

3月13日、神戸大学大学院人間発展環境学研究科・内山愉太研究室の学生が、山口東司GW三島インストラクターの案内で源兵衛川、三島梅花藻の里等を視察。渡辺豊博GW三島専務理事から会の歴史やまちづくりのノウハウの説明を受けた。



3月13日、神戸大学大学院人間発展環境学研究科・内山愉太研究室の学生が、山口東司GW三島インストラクターの案内で源兵衛川、三島梅花藻の里等を視察。渡辺豊博GW三島専務理事から会の歴史やまちづくりのノウハウの説明を受けた。

源兵衛川の出前授業 2/6

三島市民文化会館で錦田小学校4年生に、三島の環境や源兵衛川の魅力などを説明。昔は汚れていた川も、市民の知恵と努力で美しい環境に戻ったことを語った。ルールを守って川遊びをし、捕った魚等は必ず川に戻すことや、多くの人の協力と努力で守っていることを伝えた。



大場里山の草刈り・野鳥観察会

2月27日、大場里山地区にあるメダカ池周辺の水草と植林地の下草刈りを行った。小さいながらメダカの生息を確認し、定期的な水辺環境整備の成果を実感した。滝道雄講師の指導による大場里山での野鳥観察会では、たくさんの鳥の存在と生態を学んだ。



GW三島の活動記録 2026 年 2 月 1 日～2026 年 5 月 31 日

月	日	曜	事業名	内容	場所	人数
2	7	土	富士山湧水調査隊	富士山南麓の湧水地調査	富士山南麓地域	2
2	10	火	静岡県知事表敬訪問	グッドデザイン賞、静岡県景観賞受賞報告	静岡県庁	7
2	14	土	はたの里環境再生ワンデイチャレンジ	竹垣リニューアル作業	はたの里	7
2	23	月	三島・富士山湧水保全フォーラム	講演・パネルディスカッション	TMOホール	60
2	26	木	はたの里環境再生ワンデイチャレンジ	竹垣のリニューアル作業	はたの里	6
2	27	金	大場里山ワンデイチャレンジ	メダカ池の草刈り、野鳥観察	大場里山	5
2	28	土	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り	松毛川	6
3	5	木	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化	松毛川	8
3	6	金	松毛川千年の森づくり	竹のチップ化	松毛川	6
3	10	火	大場里山ワンデイチャレンジ	植林	大場里山	7
3	14	土	はたの里環境再生ワンデイチャレンジ	土羽づくり	はたの里	9
3	20	金	はたの里環境再生ワンデイチャレンジ	ホタルの幼虫とカワニナの放流	はたの里	30
3	23	月	～28(土) 台湾訪問	視察・講演会	台湾	1
3	29	日	地球倫理推進賞受賞式	受賞式	都市センターホテル	4
4	5	日	松毛川千年の森づくり	植林	松毛川	15
4	7	火	理事会・評議員会	会議	GW三島事務局	14
4	17	金	狩野川・松毛川富士山公園整備作業	公園整備作業	狩野川・松毛川富士山公園	15
4	22	水	三島市長表敬訪問	受賞報告	三島市役所	6
5	7	木	源兵衛川整備作業	草刈り	源兵衛川	5
5	13	水	富士山・宝永火口エコツアー	韓国からのお客様を宝永火口に案内	富士山	16
5	22	金	～25(月) 台湾訪問	シンポジウム、会議	台湾	1
5	26	火	加和太建設新入社員研修	境川・清住緑地整備活動体験	境川・清住緑地	25
5	30	土	腰切不動尊大祭	御堂の清掃、読経、シャギリ奉納	腰切不動尊	50

〈源兵衛川環境出前講座〉2/6 錦田小4年85名 5/15 西小4年48名

〈定例作業〉★三島梅花藻の里18回 ★源兵衛川4回 ★鏡池ミニ公園4回

★桜川4回 ★境川・清住緑地愛護会4回 ★雷井戸4回

★沢地グローバルガーデン4回

〈定例会議〉★編集会議8回

〈募金活動〉★松毛川の森を守る募金 ★能登半島地震支援募金

★能登半島豪雨災害支援募金 随時

視察来訪者記録 R8. 2. 1～R8. 5. 31

月	日	視察団体	人数	地域
3	5	慶應義塾大学環境情報学部	7	東京都
3	13	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	7	兵庫県

GW三島事務局の新スタッフ かどくらななかさん 門倉菜々香さん

昔から自然が大好きで川や緑、生物と多く触れ合ってきました。他にない自然だけにしかないこの美しさ、温かみを守る活動に少しばかりでもこのGW三島で貢献していけたらと思います。



「グラウンドワーク三島・アクショントーク」ボイス・キューで再開

4月17日、ボイス・キューで3年ぶりに「グラウンドワーク三島・アクショントーク」の収録をパーソナリティーの岡本真由美さんで行った。放送開始は4月19日(日)午後12:30。

現場からの主張・指摘・情報提供などを、1年間に渡り伝えていく。



対話型AIの本『ジャンボ・メッセージ』発売開始



4月17日、渡辺豊博GW三島専務理事の対話型AIの本『ジャンボ・メッセージ』(泉町書房・2,500円税別)が発売された。読者と著者との相互情報・交換型の本である。まちづくりのノウハウ・NPO運営の極意・戦略的なアプローチなどの専門的知識と現場学・体験学を学習でき、AIジャンボに質問できるAI機能付きの世界初の革新的な本。

腰切不動尊大祭 5月30日(土)



好天に恵まれ、日本大学のNICS(ボランティア活動部)の参加もあり、活気ある大祭になった。御堂の清掃後、法要(龍泉寺の僧侶)、紙芝居『腰切不動尊のいつたえ』(グローバル文化交流協会)、奉納シャギリ(田町砂切保存会)が行われた。

多くの笑顔がこぼれ、三島の歴史的宝物を次世代に受け継ぐ、文化と歴史の保全活動の一環として盛大に実施できた。次の例祭は、9月28日と1月28日。

三島市御園地区の遊休農地・耕作放棄地の草刈り

＊1月29日 御園田園環境保全委員会活動の一環として実施。景観が整い富士山が望める美しい田園風景が蘇った。

＊2月4日 耕作放棄地の草刈り、復田を行った。田んぼとしての機能が回復され、肥料を入れ耕運していけば、食糧生産の場として使用できる。

＊2月28日 耕作放棄地の草刈り、環境改善、田園景観の保全活動を実施。5時間近い作業で元の農地に戻った。



源兵衛川にカワニナ放流

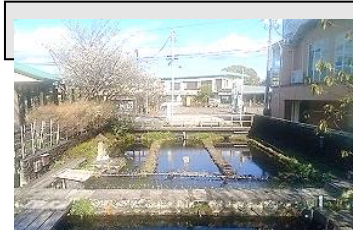
昨今、源兵衛川ではカワニナの減少が顕著で、ホタルの幼虫への餌不足が懸念されている。GW三島の観測では、昨年、一昨年の源兵衛川でのホタルの飛翔数は、2022年、2023年に比べると約1/3に激減した。

ホタルの保護・生息継続を優先し、1月29日には三島市内の排水河川で採取したカワニナ1万匹以上を源兵衛川中流部に放流した。2月4日と13日は三石神社付近まで放流の範囲を広げ、14日には上流部・水の散歩道周辺に追加放流し、ホタルの生育を願う。



「三島梅花藻の里」の定例整備作業（毎週木曜日10時～）

ミシマバイカモに付着したヌクやごみを丁寧にほうきで洗い流し、湧水地周辺の草刈りと剪定を行う。生育環境には、安定した水流、低めの水温が必要。これからの時期は、水温が上昇しヌクが発生しやすくなり、定例作業が一層重要となる。地道な清掃作業の継続のお陰で、ミシマバイカモの小さな白い花々の姿を見ることができている。



中央町のマンション建設現場で「バイオトイレ」を移動・設置

4月6日と28日、加和太建設のマンション工事現場（三島市中央町）に仮設置しておいたバイオトイレの移設作業を行った。まず、分解槽から杉チップを排出し、鉄製の屋根を外して大型クレーンで本体を移動・据付。杉チップを再投入し、機器の点検・調整をし、稼動具合を確認した。

バイオトイレは、微生物がし尿やトイレットペーパーを分解し、水洗の水は循環利用され、においも出ないことが特徴。通常の仮設トイレに比べ、快適に使用することができる。このバイオトイレは、10年以上にわたり、富士山5合目・鹿児島・宮崎・三島で実証実験・展示されているもの。消臭作用や分解能力などは衰えていない。今後も実証展示会を実施していく。



梅名環境保全推進会の総会に出席



3月29日、三島市梅名自治会館で開かれた「梅名環境保全推進会」総会に出席し、令和7年度の事業・決算と令和8年度の計画・予算を説明した。GW三島は梅名・御園地区の多面的機能交付金事業の事務局として、都市部のボランティアと連携し、復田や竹林整備、植林活動、水路・道路の補修などを行い、農村地域を支援している。いよいよ、大溝川水辺公園整備計画の策定が本格化する。

「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.20」「さんしんギャラリー善-ZEN-」

「さんしんギャラリー善-ZEN-」は、三島信用金庫が創立100周年を記念し、地域の芸術文化振興を目的に本店営業部G階（4階）へ開設したアートギャラリー。静岡県東部・伊豆地域で創作を続ける作家や次代を担う若手に発表の機会を提供し、ここから国内外へ芸術情報を発信することを目指している。

企画・運営を公益財団法人佐野美術館に委託し、年4回個展形式で展覧会を開催。絵画（洋画・日本画）、彫刻、陶芸、版画をはじめ、グラフィックアート、消しゴムハンコまで幅広い。地域ゆかりの作家の魅力を一般に広く紹介している。

2026年の展覧会スケジュール

4/6（月）～20（月）	眞野 敦（写真）
6/1（月）～15（月）	西原 澄乃（油絵）
9/1（火）～15（火）	杉山 光子（絵画）
11/2（月）～16（月）	岩崎 有（写真）



三島市内の写真集



撮影者: やまぼうし

撮影場所: 玉澤妙法華寺

撮影日時: 2025/4/2 11:11

ひとこと: 玉澤妙法華寺のヤマザクラ。推定樹齢400年の歴史に幕。4月初め強風のため倒木。今は更地となり跡形もない。もう見る事が出来ないと思うと残念で寂しい。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えてEメールに添付し、GW三島事務局まで。Eメール: info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使用させていただきます。

- * 東日本大震災支援募金
- * ネパール地震支援募金
- * 熊本地震支援募金
- * 大阪北部地震支援募金
- * 松毛川の森を守る募金
- * 西日本豪雨災害支援募金
- * 能登半島地震支援募金
- * 能登半島豪雨災害支援募金

慶応義塾大学環境情報学部がGW三島にヒアリング調査

3月5日、慶応義塾大学環境情報学部一ノ瀬研究室が三島市の水源地をテーマにヒアリング調査。源兵衛川をはじめとする



河川の水質管理と観光資源としての役割、源兵衛川と境川・清住緑地の運営体制、ボランティアやサポーターの役割、水資源の変動時の対策、観光客が三島の環境保全に貢献できる仕組み等を質問された。

汚れていた源兵衛川の水辺再生のプロセスや調整仲介役としての役割、環境デザインとエコロジーアップの設計指針を説明。こちらからは情報収集だけでなく、維持管理の現場に来て理解し、今の三島の水資源・観光の現状の把握分析を要望した。

台湾に行っても東奔西走

GW三島の渡辺豊博専務理事は、台湾でも東奔西走。今回は3月23日から6日間、『GW台湾・活動マニュアル』『ジャンボ・メッセージ』等の台湾での発刊、意見交換会、講演会、水辺視察等で台湾を訪問。詳細はGW三島のHPでご確認を!

NZの青年も源兵衛川等を再訪



3月31日、NZの姉妹都市ニュープリマス市から、デイビッド・サンダーさんが再訪。姉妹都市提携にも尽力されたラッセル・クリアウォーターさんの親戚の青年で、大学生時代、小松宅にホームステイ。その後、英語教師として

沼津市に住んでいたこともあり、グローバル文化交流協会やGW三島の行事にも参加。今回は、足立美術館ほかを見学後、三島に立ち寄り、その後は青森県に行くという旅。節目の年齢ということで髭をたくわえ、似合っていると皆に褒められていた。

-8-

3月中旬の「水の都・三島」湧水の状況

3月中旬時点で、白滝公園・浅間神社神池・桜川の水はほとんどなく、川底、池底を晒している。それで、平成7(1995)年から楽寿園・小浜池の月平均水位表を作成(楽寿園のHPの掲載データより作成。詳細はGW三島HP参照)した。



これを見ると、天候など環境の影響により年度によって異なる。さらに今後も水位変化の動向を観察していく。

60余年の交流で、初めて三島を訪問オーストラリアのペンパルが孫娘と



オーストラリアのビクトリア州在住のシンシア・パーカーさんは、小松幸子理事長の10代からのペンパル(近年はPCメールで交流)。

来日2度目でシンシアは、ついに水の都・三島を訪問。ミュージカルの主演や絵本創作もする多彩な孫娘のアディソン・ケンプさんとともに、雨の源兵衛川を散策。雨なのに濁らず澄んでいる川に驚き、英国発祥のGW活動についても説明板を熱心に読んでいた。4月10日のことだった。

かつて、グローバル文化交流協会の海外研修でオーストラリアを訪れた時、シンシアは娘2人とアデレードまで会いに来てくれた。60余年の交流には思い出がぎっしり詰まっている。小松ファミリーは、何度かシンシア宅でホームステイ。今回スマホで、英国移民の父・ヒューイのパスポートの白黒写真をみせられ感慨深かった。

グラウンドワーク三島編集室(五十音順)

浅井 一哉 河田 恵美子 岸野 和子
城所 祖帝 小松 幸子 佐々木 寛
相馬 幸永子 前田 充子 山崎 多紀子

GW三島事務局担当: 美和 将弘